



令和7年度

内谷中学校学習案内 ～シラバス（第3学年）～



さいたま市立内谷中学校

〒336-0034 さいたま市南区内谷6-10-1

TEL 048-861-7571 FAX 048-836-1586

<http://uchiya-j.saitama-city.ed.jp>

この「学習案内（シラバス）」は、生徒の皆さんが学校の授業に見通しをもち、主体的・計画的に学習に取り組んでもらうことを目的として作成してあります。各教科のねらい、学習内容と授業の進め方、学習上の留意点、評価の観点と方法などが示されています。また、それぞれの単元や教材で身につけてほしい力を「到達目標」という形で示しています。

また、今年度はカリキュラムマネジメントの視点から、各教科の関連を意識した授業を行っていきます。

いつも身近なところにおいて読み返し、学習の指針として活用してください。

目次

国語

社会

数学

理科

音楽

美術

保健体育

技術・家庭

グローバル・スタディ

特別の教科 道徳

特別活動

総合的な学習の時間

国語科の目標	評価の観点等
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語を正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目的とする。 ・社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 ・社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 ・言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 ①知識・技能 ○社会生活に必要な国語の知識を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができているかどうか等を評価します。 ★定期テスト、ノートやプリント等の記述内容、発表内容等をもとに評価します。 ②思考・判断・表現 ○筋道を立てて考える力や、豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができているか等を評価します。 ★定期テスト、感想や作文、ノートやプリント等の記述内容、話し合い活動や、それらの活動に基づいた発表等をもとに評価します。 ③主体的に学習に取り組む態度 ○言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度等を評価します。 ★ノートやプリント等における記述内容、授業中の発言や参加状況、振り返りカード、教員による行動観察等をもとに評価します。 評価規準：○ 評価方法：★
学習の特色	
国語科の授業では、日常的な語彙の習得から、日本語を用いた思考力や表現力を養います。 目標にある「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着眼して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることを指します。そのような目標に向かって、優れた言語感覚をもった生徒を育成します。 授業は、1・2年生は週4時間、3年生は週3時間で実施します。 日々の授業の中では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」について学習します。 また、ICTを活用することで、個々の意見や考えをクラス全体で可視化、共有し、一人ひとりの考えをさらに深めていけるようにします。	

〔知識及び技能〕社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。

〔思考力、判断力、表現力等〕 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。〔学びに向かう力、人間性等〕 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	詩 春に ○表現を味わい、描かれた「気もち」を捉えることができる。 随筆 立ってくる春 ○随筆という文章の種類とその特徴について理解を深め、筆者の個性的な考えを捉えることができる。 随筆 なぜ物語が必要なのか ○「物語」の役割について筆者の考えを捉え、自分の知識や経験と結びつけて読むことができる。 小説 私 ○文章を吟味して読み、文章に表れているものの見方や考え方について批評することができる。 ○作品を読み、考えを広げたり深めたりして、人間や社会などについて、自分の意見をもつことができる。 硬筆 ○行書と仮名を調和させて書くことができる。
2 学 期	論説 AI は哲学できるか ○文章を批判的に読みながら、筆者の主張を捉えることができる。 古文 旅への思い―芭蕉と『おくのほそ道』 ○歴史的背景や文章の特徴を理解し、古典に深く親しむことができる。 ○各場面から情景や芭蕉の心情を捉えることができる。 古文 和歌の調べ―万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 ○それぞれの和歌集について特徴や文学的価値について知るとともに、歌のリズムを味わう。 漢文 風景と心情―漢詩を味わう ○歴史的背景を踏まえて情景や心情を捉えることができる。 ○漢詩の形式や表現の工夫などを理解して作品の響きを味わうことができる。 文法 助詞のはたらき ○助詞の種類とはたらきを捉え、日常生活で正しく使えるようにする。 論説 async―同期しないこと/問いかける言葉 ○筆者の主張とその根拠に着目しながら読むことができる。 ○文章の構成や展開、表現の仕方を図式化しながら整理することができる。 ○文章を読み比べ、評価しながら読むことができる。 書初め ○行書の特徴を理解し、字形を整え、文字の大きさ、配列、配置を意識して書くことができる。
3 学 期	俳句 俳句の味わい ○表現技法を理解し、情景や心情を読み取ることができる。 ○印象に残った句を選び、声に出して読むことができる。 詩 初恋 ○文語定型詩の響きに親しみ、リズムを味わいながら音読することができる。 文法 助動詞のはたらき ○助動詞の種類と働きをとらえ、日常生活で正しく使えるようにする。 小説 故郷 ○過去と現在における「私」と「関土」の心情を捉えることができる。 ○時代背景を抑え、『故郷』に描かれた作者の思いを知る。 ○「希望」について考え、人間、社会などについて、自分の意見をもつことができる。

社会科の目標
◎広い視野に立って、社会（世の中）に対する関心を高める。 ◎資料を分析・活用して、多面的・多角的に考察し、表現できる力をつける。 ◎国土と歴史に対する理解を深める。 ◎グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国・社会を形成する一員として必要な、公民としての基礎を育成する。
学習の特色
◎身につけた基礎知識を活用し、思考力・判断力・表現力を高めていく教科です。単に覚えるだけではなく、一つの事柄を様々な視点から考えることで、より理解を深める。 ◎世界の動向や地域社会の課題など、社会に課題意識を持ち、解決していくためのスキルを習得する。 ◎授業では、基礎知識を理解するとともに、教科書を中心とした資料を活用し、資料に基づいて考察するなどの学習を進める。 ◎先生の話だけでなく、クラスメイトの主張にも耳を傾けつつ、自分の考えを修正したり補強したりする。 ◎興味・関心を高めたり、思考力・判断力・表現力を発揮したりする場として、授業内で自分の考えを、ICTを用いて発表する機会を設ける。 ◎自主学習課題を工夫して進めることで、主体的に、知識だけでなく思考・判断・表現力も伸ばす。

評価の観点等
評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①知識・技能 ○社会的事象に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的にまとめる技能を身に付けるようとしている。 ★ テスト（定期テストなど） ★ パフォーマンス課題 （レポートや ICT を用いたプレゼンテーションなど） ②思考・判断・表現 ○社会的事象の意味や意義を、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力や、その思考・判断の内容を説明したり、それらを基に議論したりする力を身につけている。 ★授業中の話し合い等の諸活動への取組 ★テスト（定期テストなど） ★パフォーマンス課題 （ICTを用いたプレゼンテーション・レポートなど） ③主体的に学習に取り組む態度 ○社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。 ★授業中の取り組みの記録など ★パフォーマンス課題 （プレゼンテーション・レポートなど） 評価規準：○ 評価方法：★

令和7年度 社会科 第3学年の目標

社会科好きの生徒を育てる授業の実践

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	〈歴史的分野〉 第6章 二度の世界大戦と日本 ○1節 第一次世界大戦と日本・2節 世界恐慌と日本の中国侵略・3節 第二次世界大戦と日本 ・第一次世界大戦の始まりから第二次世界大戦の終戦までを学習する。 ・大戦を経験した過去から、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、よりよい社会の実現を視野に、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想する。 ・日本が歩んできた歴史に見られる課題を主体的に追及、解決する。 第7章 現代の日本と世界 ○1節 戦後日本の発展と国際社会・2節 新たな時代の日本と世界 ・第二次世界大戦後の日本の復興と冷戦後の世界までを学習する。 ・大戦後の日本がどのようにして復興し、国際社会に復帰していったのかを理解する。 ・冷戦がどのような要因で起き、どのような経緯をたどっていったのか、国際社会の情勢を大観する力を身に付ける。
2 学 期	〈公民的分野〉 第1章 現代社会と私たち ○1節 現代社会の特色と私たち・2節 私たちの生活と文化・3節 現代社会の見方や考え方 ・現代社会の特色や、現代社会における文化の意義や影響について学習する。 ・現代日本の社会は少子高齢化、情報化、グローバル化などの特色がみられること、様々な場面において伝統や文化の影響を受けていることを理解する。 ・伝統や文化が現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現する。 第2章 個人の尊重と日本国憲法 ○1節 人権と日本国憲法・2節 人権と共生社会・3節 これからの人権保障 ・民主主義や個人の尊厳、人権の尊重について学習する。 ・各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについて理解する。 ・個人の尊厳と両性の本質的平等、それを守る意義及び責任について理解する。 第3章 現代の民主政治と社会 ○1節 現代の民主主義・2節 国の政治の仕組み 3節 地方自治と私たち ・民主主義の仕組みや政党の役割、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について学習する。 ・国や地方公共団体の政治の仕組みについて理解する。 ・主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
3 学 期	第4章 私たちの暮らしと経済 ○1節 消費生活と市場経済・2節 生産と労働・3節 市場経済の仕組みと金融 4節 財政と国民の福祉 ・5節 これからの経済と社会 ・消費生活を中心に経済活動の意義、市場経済の基本的な考え方、現代の生産や金融の仕組みや働きなどを学習する。 ・価格の決めり方や資源の配分についての理解を基に市場経済の基本的な考え方を理解する。 ・個人や企業の経済活動における役割と責任、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現できるようになる。 第5章 地球社会と私たち ○1節 国際社会の仕組み・2節 さまざまな国際問題・3節 これからの地球社会と日本 ・国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割について学習する。 ・国際社会における我が国の役割を多面的・多角的に考察、構想し、表現したり、課題を探究し、自分の考えを説明、論述できるようにしたりする。

令和7年度 内谷中学校 数学科 シラバス

数学科の目標 ・数学を学ぶことで、問題解決の喜びを感じ、人生をより豊かにする。このため、数学と人間との関わりや数学の社会的有用性についての認識を高められる生徒の育成をする。 ・社会生活などの様々な場面において、必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり意思決定をしたりすることが求められる能力を育成する。	評価の観点等 評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
学習の特色 数学科の授業では、定義をもとに、用語や知識の習得と、基本的計算の反復練習、根拠をもとにした説明能力をバランスよく身に付けていく。加えて、3年間を通して、美しく簡潔な解答を作成できる能力を育成する。 1, 3年生は週4時間, 2年生は週3時間, 授業を行う。授業内では教科書やワークシートを活用し, 前時の授業からのつながりを大切にしながら系統的に進めていく。また, ICT の活用により, 関数のグラフや図形等の知識の上にあるイメージをより鮮明にし, 理解につながる授業の工夫も取り入れる。 さらに, 数学科では, STEAMS 教育の中心として, 「言語としての数学」を重視し, 他教科との連携を図り, 自らが考え, 問題を解決する能力を育成する。	①知識・技能 ○各教科で身につけるべきとされる知識やスキルについて, 十分に習得しているかを評価する。 ★定期テスト, ワークシート, ワーク, 授業中の出題 等。 ②思考・判断・表現 ○課題や問題に向き合って解決の糸口を見つけ, 自らの思いを表現できているかを評価する。 ★定期テスト, ワークシート, ワーク, 授業中の論理的な記述 等。 ③主体的に学習に取り組む態度 ○生徒本人がいかに学習を調整して, 知識を習得するために試行錯誤しているかを評価する。 ★定期テスト, 授業中のグループ活動や発表・課題レポート 等。 評価規準：○ 評価方法：★

令和7年度 数学科 第3学年の目標

「なぜだろう？」を意識した授業の展開

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	1章 式の展開と因数分解 ・式の展開や因数分解の必要性和意味を考えようとしている。 ・多項式について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 ・文字を用いた式を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしている。 2章 平方根 ・数の平方根の必要性和意味を考えようとしている。 ・数の平方根について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 ・数の平方根を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしている。 3章 二次方程式 ・二次方程式の必要性和意味を考えようとしている。 ・二次方程式について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 ・二次方程式を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしている。
2 学 期	4章 関数 $y=ax^2$ ・関数 $y=ax^2$ の必要性和意味を考えようとしている。 ・関数 $y=ax^2$ について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 ・関数 $y=ax^2$ を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしている。 5章 図形と相似 ・相似な図形の性質の必要性和意味を考えようとしている。 ・図形の相似について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 ・相似な図形の性質を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしている。 6章 円の性質 ・円周角と中心角の関係の必要性和意味を考えようとしている。 ・円周角と中心角の関係について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 ・円周角と中心角の関係を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしている。
3 学 期	7章 三平方の定理 ・三平方の定理の必要性和意味を考えようとしている。 ・三平方の定理について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 ・三平方の定理を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしている。 8章 標本調査とデータの活用 ・標本調査の必要性和意味を考えようとしている。 ・標本調査について学んだことを生活や学習にいかそうとしている。 ・標本調査を活用した問題解決の過程をふり返って評価・改善しようとしたり、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとしたりしている。

理科の目標
身のまわりにある自然や物質、あるいは身の回りで起こっている現象について、調べ方を考え、予想をし、観察や実験を行って得られた結果を解析して規則性を把握する教科である。そのために、自然や事物現象に対する知識を習得するとともに、その観察や実験で得られた結果を考察し表現する能力、自然や事物現象にいかに関心を持ち、生活の中に活用できるかを考えられる能力を育成する。
学習の特色
理科という教科は、観察・実験があるため、5教科の中でもとりわけ実技系教科に近い性質があり、テストの点数だけでなく、観察・実験の評価も合わせて成績の判断とします。そのため、テストの点数が高いからといって、観察・実験をないがしろにしていると成績が上がりにくく、逆にレポートが素晴らしいと評価が上がることもあります。 各学年で「生命」に関する単元、「地球」に関する単元、「物質」に関する単元、「エネルギー」に関する単元があり、この単元なら得意、という内容が見つかることも少なくありません。また理科は他教科の内容を幅広く扱うことも多く、特に数学、社会、技術・家庭科、保健体育、美術など、様々な教科のエッセンスを取り扱う事も多い教科です。理科を学習することで、他教科の内容も深く理解することができることが多いのも特徴と言えます。 最後に理科は「疑問」から成立した教科です。常に「疑問」を持って、自分なりに考え、観察・実験を通して結果をまとめ、発表できるような能力の育成を目指しています。

評価の観点等

評価の観点

- ①知識・技能
- ②思考・判断・表現
- ③主体的に学習に取り組む態度

①知識・技能

○身のまわりの自然や物質、現象などについて知識を習得し、それを利用する事ができるとともに、観察・実験を適切に行い、結果をまとめることができる。

★主にテスト・観察・実験レポート

②思考・判断・表現

○身のまわりの自然や物質、現象などがどのような仕組みでそうになっているかを予想し、観察・実験で得た結果をもとに規則性を見つけて、表現することができる。

★主にテスト、観察・実験レポート

③主体的に学習に取り組む態度

○身のまわりの自然や物質、現象などについて、積極的に取り組む姿勢を持つとともに、習得した学習内容を自ら活用できるようにすることができる。

★主に授業ノート、ワーク、テスト、授業の様子等

評価規準：○ 評価方法：★

令和7年度 さいたま市立内谷中学校 理科 シラバス

学年・教科		第3学年 「理科」	
教科目標		自然の事物・現象に対する関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。	
指導計画	学習内容		学習のねらい
	1 学期	生命の連続性 ○生物の増え方と成長 ○遺伝の規則性と遺伝子 ○生物の種類の多様性と進化	○身近な生物についての観察・実験を通して、生物の成長とふえ方、遺伝現象について理解させるとともに、生命の連続性についての認識を深める。生物の成長や生殖を細胞レベルでとらえるとともに、細胞分裂のようすや、植物、動物の生殖、親から子に形質が伝わるしくみについて学習し、生命の連続性が保たれることについて理解し、生命を尊重する態度を育てる。
		化学変化とイオン ○水溶液とイオン ○電池とイオン ○酸、アルカリと塩	○化学変化についての観察、実験を通して、水溶液の電気伝導性や中和反応について理解させるとともに、これらの事物・現象をイオンのモデルと関連付けて見る見方や考え方を養い、物質や化学変化に対する興味・関心を高め、身のまわりの物質や事象を新たな見方や考え方でとらえさせる。
	2 学期	地球と宇宙 ○地球から宇宙へ ○太陽と恒星の動き ○月と金星の動きと見え方	○身近な天体の観察を通して、地球の運動について考察するとともに、太陽の特徴および太陽系についての認識を深め、天体および宇宙への興味・関心を高める。
		運動とエネルギー ○力の合成と分解 ○物体の運動 ○仕事とエネルギー ○多様なエネルギーとその移り変わり ○エネルギー資源とその利用	○力や物体の運動についての観察・実験を行い、力の基本的な性質を理解して運動の規則性に気づくとともに、力学的エネルギーにかかわる実験を行い、仕事の概念を導入してエネルギーの移り変わりと保存について理解し、日常生活や社会と関連づけながら運動とエネルギーの見方や考え方を養い、エネルギーの有効利用について科学的に考察し判断できるようにする。
	3 学期	自然と人間 ○自然界のつり合い ○さまざまな物質の利用と人間 ○科学技術の発展 ○人間と環境 ○持続可能な社会をめざして	○エネルギー資源の有効利用の重要性や、科学技術の発展の過程や科学技術が人間生活に貢献してきたことの認識を深めるとともに、自然界における生物相互の関係や自然界のつり合いについて理解させ、自然の恵みと災害をとり上げ、自然と人間のかかわり方について認識を深めさせ、自然環境の保全と科学技術の利用のあり方について、科学的に考察し、適切に判断する態度を養う。
評価方法		学期及び学年評価 ＊授業への取り組み、レポートや授業時間内に行う課題、定期試験などで評価します。 〔知識・技能〕〔思考・判断・表現〕〔主体的に学習に取り組む態度〕 定期試験について ＊観点に分けて作成します	
学習方法		○教室での一斉授業、及び理科室などでの観察、実験（校舎外なども含む） ○映像などを利用した視聴覚的学習。 ○タブレットを活用した積極的な意見発表及び交換。（ICTの活用）	
その他		○安全に実験を進めるために、実験によって安全メガネを着用します。 着用できない場合は、観察・実験が行えないこともあります。 ○配布されたプリント類は必ず保存してください。 ○2学期にプラネタリウム学習が予定されています。（会場：青少年宇宙科学館）	

音楽科の目標
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指しています。
学習の特色
音楽の授業は、「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」を通して、日常のさまざまなことを、音楽と結びつけて考える力を身に付けること、また、その力をもって生涯を通して音楽を好きになっていくことが目標です。 音楽は週に1年生は1・5時間、2・3年生は1時間あります。1回1回の授業を大切にしていきたいと思います。 2学期には、合唱祭という大きな行事があります。限られた練習時間で歌えるようになるには、個々の努力やクラス全員の団結力が必要です。ぜひ混声合唱で歌い合わせるハーモニーの美しさを味わってほしいと思います。 昨年度に引き続き、全学年でリコーダーの授業の実施、1年生でアルトリコーダーの購入を検討しています。ICTを用いた作曲活動にも取り組む予定です。 また、管弦楽教室（第2学年）、合唱祭（全学年）、小中合同音楽会（第3学年の1学級）等、学校外のホールにて、音楽に関する行事があります。

評価の観点等
評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①知識・技能 ○曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能が身についているかを評価します。 ★定期テスト、実技テスト、授業中の実技の様子等を総合して評価します。 ②思考・判断・表現 ○音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるかを評価します。 ★ワークシートの記述（鑑賞）、定期テスト（リスニング問題）、授業中の実技の様子等を総合して評価します。 ③主体的に学習に取り組む態度 ○音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培われているかを評価します。 ★ワークシート（自己評価カード）等提出物の記述、授業中の取り組みや発言、テストのへの取り組みを総合して評価します。 評価規準：○ 評価方法：★

令和7年度 音楽科 第3学年の目標

【知識及び技能】曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	□校歌「白いノート」、「Joy To The World」(内容中発声練習) ○音楽への関心を高め、よい発声で歌うことができる。 ○2部合唱版で練習し、ハーモニーの美しさを味わうことができる。 □花 ○歌詞の情景を味わい、美しい発声や発音に気をつけて歌うことができる。 ○楽曲の背景を知り、曲の構成や、言葉と旋律との関係を理解し、ふさわしい歌い方を工夫することができる。 □帰れソレントへ ○曲の拍子に合う図形で指揮を振ることができる。 ○歌い始め、終わりのタイミングがわかるように指揮をすることができる。 ○速度や強弱、転調などによる曲想の変化をとらえて指揮を工夫することができる。 □学年合唱曲（合唱祭に向けて） ○音楽的な目標をもって、積極的に取り組むことができる。 ○自分のパートの役割を理解し全体のバランスに気をつけて歌うことができる。 □学級ごとのクラス曲（合唱祭に向けて） ○歌詞の内容や楽曲の音楽的な特徴を理解し、自らふさわしい表現を工夫することができる。
2 学 期	□学級ごとのクラス曲（合唱祭に向けて） ○歌詞の内容や楽曲の音楽的な特徴を理解し、自らふさわしい表現を工夫することができる。 □舞台芸術…オペラ・バレエ・ミュージカル・歌舞伎 ○曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。 ○曲に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 □ギター・リコーダーによる「Happy Birthday to you」 ○構造、弦の付け方、調弦方法を理解することができる。 ○正しい姿勢、奏法でギターを演奏することができる。 ○それぞれの楽器の音色など、音楽の特徴を感じながら演奏することができる。
3 学 期	□ギターにまつわるポピュラーミュージックについて ○ギターの楽器としての変化と、電子楽器の登場による音色の違いを味わって聴く。 ○曲に対する評価とその根拠について考え、筆記や応答にて表現することができる。 □「旅立ちの日に」校歌「白いノート」 ○パートの役割や曲想を理解し、ふさわしい歌い方を考えて表現することができる。 ○歌詞を味わい、心をこめて表現することができる。 ○共に歌うことの素晴らしさや喜びを味わいながら、積極的に取り組むことができる。

美術科の目標	評価の観点等
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方や考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育てていくことを目標としています。 ○造形的な視点を生かし、表現方法を工夫して、造形的に表すこと。 ○造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し、発想や構想を練ること、また美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めること。 ○創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培うこと。	評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 ①知識・技能 ○発想や構想したことなどを基に、創意工夫したり、見通しをもちながら表したりすること、用具を正しく用いているか、形や色彩などの性質や効果などを理解しているかなどを評価します。 ★ワークシート、作品制作の様子、作品などを総合的に評価します。 ②思考・判断・表現 ○感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に発想や構想をしてくと共に、美術作品や美術の働きや美術文化に関する鑑賞を通して評価します。 ★ワークシート（アイデアスケッチや鑑賞）、作品制作の様子、作品などを総合的に評価します。 ③主体的に学習に取り組む態度 ○知識・技能や思考・判断・表現の能力を身につけるために、どのように努力を重ね、主体的かつ意欲的に取り組んでいるかを評価します。 ★ワークシート（特に振り返りカード）、授業での取り組みの様子や、発言、作品での取り組みの工夫、などを総合的に評価します。 評価規準：○ 評価方法：★
学習の特色	
美術の授業では、「感じ取ったことや考えたことなど」や「目的や機能などを考えたこと」から発想や構想し、立体や平面の作品に表していく表現の活動や、美術や美術文化について、見方や感じ方を深める鑑賞の活動を通して、作品をつくりあげる喜びや、心豊かな生活を創造していこうとする気持ちを育みます。 美術は週に1年生は1・5時間、2・3年生は1時間しかありません。1時間の授業を大切に制作に取り組みましょう。また、「こんなところにも美術が使われている」「これを美術に生かしたら楽しそうだな」など、日ごろから皆さんの身の回りのものを美術的な視点で見ていくと美術の力につなぐことができます。 美術は自分なりの正解を創りだしていく授業です。ぜひ、自信をもって作品をつくりあげてください。	

令和7年度 美術科 第3学年の目標

- (1) 主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。
- (2) 対象を深く見つめ感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばす。
- (3) 自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	オリエンテーション ・これからの一年間の学習内容に取り組む意欲を高めることができる。 ・美術の学習の目的を考え、授業を受ける心構えを理解し、作品を大切にする気持ちを育てている。 仏像鑑賞 ・修学旅行で鑑賞する仏像のよさや美しさ、込められた思いや、創造的な表現を味わっている。 今を生きる私へ～プッシュステンド～ ・自分に向き合い、中学校生活の思い出や、将来への思いなどから主題を生み出している。 ・主題を基に、構図や色彩などの効果を考え、創造的に構成しようと構想を練っている。 ・プッシュステンドの特性を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫して創造的に表している。 ・心の中を見つめ、自画像で表すことに関心をもち、意欲的に取り組んでいる。
2 学 期	さまざまなアートに触れよう ・現代美術の美しさ、面白さなどをもとに、作者の意図と創造的な工夫などについて考え、鑑賞している。 石でつくる私の印～篆刻～ ・自分の名前の意味や込められた思いなどから主題を生み出している。 ・主題を基に、塊から感じる存在感や、形から感じる動きなどを生かして表したい形を考え、構想を練っている。 ・篆刻の印材の特性を生かし、伊藤に応じて表現方法を創意工夫して創造的に表している。 浮世絵はすごい ・江戸文化や浮世絵に対する関心を深め、作品のよさ美しさやとともに浮世絵の優れた技術を理解するとともに、日本美術や伝統文化を受け継ごうとする態度を身につけている。
3 学 期	その1枚が心を動かす ・中学3年生としてSDGsや社会の問題に目を向け、主題を生み出している。 ・主題を基に、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。 ・展開するカードの特性を生かし、見通しをもって効率よく安全に制作することができる。 ・友達の作品を鑑賞し、その思いや意図、表現の工夫などを感じ取り、話し合っている。

保健体育科の目標	評価の観点等
保健体育を学ぶことで、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す。・各種の運動の特性に応じた技能・健康・安全について理解し、基本的技能を身につける。・自他の課題を発見し、解決に向けて思考判断し、他者に伝える力を養う。・生涯にわたって運動に親しみ、健康保持・体力の向上を目指し明るく豊かな生活を営む態度を養う。	評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
学習の特色	①知識・技能 ○運動の意味や成り立ちを知り、実際に行うことができるか評価する。また、保健課題について理解を深められているか評価する。 ★テスト (定期テストや実技テスト等) ★授業内の取り組み ★学習カード ②思考・判断・表現 ○自分の課題を見つけ、適した練習を選択し、課題を解決するために必要な力を身に付けたり、表現したりすることができるか評価する。 ★授業中の話し合い等の諸活動への取組 ★学習カード ★授業内の取組 ③主体的に学習に取り組む態度 ○健康や安全に留意し、一人一人の違いを認めながら、仲間と協力して積極的に学習に取り組んでいるか評価する。 ★授業中の取り組み方 ★学習カード 評価規準：○ 評価方法：★
保健体育科の授業では、教科の目標をもとに、知識を習得し、それぞれの運動の特性に応じた行い方や運動をすることの意義や効果などについて科学的に理解できるようにします。基本的技能を身につけることで、生涯にわたって運動に親しむ資質をばぐくめるようにします。また、3年間を通して体力の向上を目指し、将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにすることを目指していきます。 1・2・3年生ともに週3時間、授業を行います。授業内では毎時間の目標をたて、教科書や学習カードを活用し、どうしたら上達したり、身につけたりすることができるのかを考えながら進めていきます。また、ICTを活用し、知識を深めるとともに、動画撮影等を行うことで、動きのイメージをより鮮明にし、分析したり、他者に伝えたりすることができるようにします。 1学期には体育祭を開催します。全学年が、学習の成果の発表の場として表現をしたり、競技力向上を目指したりします。活動を通して、集団としてのまとまりや他を認める心を育てていきます。	

令和7年度 保健体育科 第3学年の目標

一人ひとりの違いを尊重し、生涯にわたって運動を親しむ態度養おう。

学期	学 習 到 達 目 標
1学期	○体育に関する知識 ・運動やスポーツの学び方や運動の効果を理解し、文化としてのスポーツの意義を理解できる。 ○体づくり運動 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、体力の向上を目指し、自己にあった運動を身に付けることができる。 ○陸上競技Ⅰ（ハードル・走り幅跳び） ・記録の向上や競争の楽しさを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができる。 ○器械運動（マット運動・跳び箱） ・技ができる楽しさを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、自己に適した技で演技することができる。 ○水泳 ・記録の向上や競争の楽しさを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができる。 ○保健（健康と環境） ・私たちを取り巻く環境は、どのような関わりがあるか知り、自然環境の汚染をどのように防ぐかを考えることができる。
2学期	○球技Ⅰ選択（ソフトボール・ハンドボール・バレーボール） ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開できる。 ○陸上競技Ⅱ（長距離走） ・自己に適したペースを維持して、一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり、競争したりできる。 ○球技Ⅱ（アルティメット・バスケットボール） ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開できる。 ○ダンス（創作ダンス・現代的なリズムのダンス） ・感じをこめて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表ができる。 ○保健（健康と環境、健康な生活と疾病の予防） ・私たちを取り巻く環境は、どのような関わりがあるか知り、自然環境の汚染をどのように防ぐかを考えることができる。 ・疾病はどのような要因の関わりがあり起こるのか知り、健康を守る社会の取り組みを考えることができる。
3学期	○武道選択（柔道・剣道） ・基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開できる。 ・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて他者と協力することができる。 ○球技Ⅲ（サッカー） ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開できる。 ○保健（健康な生活と疾病の予防） ・疾病はどのような要因の関わりがあり起こるのか知り、健康を守る社会の取り組みを考えることができる。

令和7年度 内谷中学校

家庭科 シラバス

家庭科の目標
◎それぞれの分野について、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につける。 ◎生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現する力を養う。 ◎家族や地域の人びとと協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し、創造しようとする実践的な態度を養う。
学習の特色
◎調理、製作等の実習や観察、調査、実験などの実践的・体験的な活動を通して学習することにより、習得した知識・技能を生徒自らの生活に生かします。 ◎家庭科の学習を通じて、自分に対する理解や他者へのかかわり方を学び、自分自身の成長に繋がります。 ◎先生の話だけでなく、クラスメイトの意見や感想に耳を傾けながら、自分自身の生活課題の改善に繋げよりよい生活について考えます。 ◎興味・関心を高めたり、思考力・判断力・表現力を発揮したりするために、授業内でデジタル教材等を活用します。 ◎授業での新しい発見や気づきを大切にして、自分の生活と結びつけたり、実際に工夫したりして、主体的に学習に取り組む態度も伸ばしていきます

評価の観点等
評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
評価規準：○ 評価方法：★ ①知識・技能 ○家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身につけている。 ★ テスト（定期テスト、技能テストなど） ★ レポート ②思考・判断・表現 ○生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。 ★授業中の話し合い等の諸活動への取組 ★テスト（定期テストなど） ★レポート ★振り返りシート ③主体的に学習に取り組む態度 ○家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返ったり、改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ★授業中の取り組みの記録など ★レポート ★振り返りシート

令和7年度 家庭科 第3学年の目標

自分や他者への理解とつなげる授業の実践

学期	学習の内容と授業の進め方・評価の観点と評価
1 学 期	A【幼児の生活と家族】 ○幼児のころと今の自分 ・自分の成長を振り返り、幼児期への関心をもつようにする。 ○幼児の体の発達 ・幼児の身体の発達について、発達の方向性や順序性ととも、個人差があることを理解する。 ○幼児の心の発達 ・幼児の言語、認知、情緒、社会性などの発達について理解する。
2 学 期	A【幼児の生活と家族】 ○発達にとってのおとなの役割 ・子どもが育つ環境としての、家族や周囲のおとなの役割について理解する。 ○遊びが必要なわけ ・自分の実践的・体験的な活動を通して幼児にとっての遊びの意義を理解する。 ○遊びを支える環境 ・幼児にとって遊びは生活そのものであり、十分な遊びを経験できるかんきょうが重要であることを理解する。 A【幼児とのかかわり】 ○幼児ふれあい体験事前学習 ・幼児とふれ合うことのねらいやふれ合い体験の流れを知る。 ・幼児の発達や生活の特徴から、幼児とふれ合うための自分の課題をみつけることができる。 ※幼児ふれあい体験実施予定 ・自分の課題にそって、幼児とふれ合う段階的な関り方を考え、工夫することができる。 ○幼児ふれあい体験事後学習 ・幼児とのかかわり方について、感じたことや考えたことを話し合い、幼児への理解を深める。
3 学 期	A【家庭生活と地域のかかわり】 ○家庭生活と地域での活動 ・家庭生活は、地域との相互のかかわりで成り立っていることを理解する。 ○多様な人びとが暮らす地域 ・地域で、多様な人びとが暮らせるための工夫を理解する。 ○地域に暮らす高齢者 ○高齢者とのかかわり ・地域で活動する高齢者や、見守りが必要な高齢者を理解する。 A【持続可能な家庭生活】 ○持続可能な家庭生活をめざして ・誰もが尊重される家庭・地域の生活をめざして、課題をみつけ、実践的に取り組む。

技術分野の目標
技術分野では、生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術のかかわりや技術のしくみ・原理等について理解を深め、自ら進んで生活を工夫し創造する能力と生活の中から問題（課題）を発見し、解決しようとする実践的な態度を育てることをねらいにしています。
学習の特色
技術分野の学習は、知識や技術のしくみ・原理を理解するだけではなく、習得した知識や技能を日常生活で発揮できるように取り組んでいきます。 また、さまざまな生活の課題に取り組むという実践力を身につけられるようにしていきます。そのために、常に問題意識を持ちながら、自分自身の生活を見つめ直し、習得した知識や技術を生活の中で発揮できるように、「生活の中での実践」を心がけるようにしてもらいます。また、より充実した学習・生活ができるように実生活の中で習得した知識・技能を上手に使っていくことを奨励します。 なお、実習を単に「ものづくり」で終わらせることなく、ものづくりがなんの役に立つのか、なんのためにするのか、なにを解決するのか、といった視点を重視し、ものづくりを通して、社会や生活と技術のかかわりを考えてもらうことを大切にしていきます。 また、興味・関心を高めたり、思考力・判断力・表現力を発揮したりするために、授業内でデジタル教材等を活用します。

評価の観点等
評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①知識・技能 ○各分野で身につけるべきとされている知識や技能について、十分に習得できているかを評価します。 ★評価方法 ・提出物（プリント・ワークシート等） ・定期テスト ・レポート ・作品（実習課題）、等 ②思考・判断・表現 ○課題や問題に向き合って自らの考えや思いを表現できているか、課題を解決できているか等を評価します。 ★評価方法 ・提出物（プリント・ワークシート等） ・定期テスト ・レポート ・作品（実習課題）、等 ③主体的に学習に取り組む態度 ○授業（学習や実習）に取り組む態度、授業への参加状況・姿勢、課題等の提出状況等を評価します。 ★評価方法 ・授業の様子（姿勢・取り組み状況） ・提出物の提出状況・内容 ・作品（実習課題）、等 評価規準：○ 評価方法：★

令和7年度 技術・家庭科 技術分野 第3学年の目標

生活や社会の課題をプログラミングで解決しよう！

学期	学 習 到 達 目 標
1学期	情報の表現と伝達「メディアを活用し情報を発信しよう！」 ・情報モラルについて学ぶ。 ・知的財産（権）について学ぶ。 ・情報セキュリティについて知る。 ・課題を設定し、発信内容を検討する。 ・調べたことをまとめ、どのような内容で表現するか考える。
2学期	・調べたことをまとめ、どのような内容で表現するか考える。 ・社会で利用されているコンテンツと、自分の作品を比較するなどし、解決結果や過程の改善及び、修正を考える。 ・自分の作品の評価・改善及び修正について考える。 プログラムによる計測・制御「プログラムをつくり問題解決をしよう！」 ・身のまわりの機器が、コンピュータによって計測・制御されていることに気付くことができる ・生活の中で計測・制御システムが利用されていることについて知る。 ・計測・制御システムの仕組みや各要素の働きについて知る。 ・計測、制御に合うプログラムを作成することができる。
3学期	・プログラムによる計測・制御を行う。 ・プログラムの評価、改善及び修正を行う。 ・情報の技術の役割と課題について考える。 ・3年間の学びを踏まえて、これからの社会について考える。

令和7年度 内谷中学校 グローバル・スタディ科 シラバス

グローバル・スタディ科の目標	評価の観点等
将来、グローバル社会で主体的に行動し、たくましく豊かに生きる生徒を育成します。 ・英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成を目指します。 ・日本やさいたま市の伝統・文化に誇りをもち、将来にわたり、社会に貢献する生徒の育成を目指します。	評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 ①知識・技能 ○外国語の知識(単語や文法など)を理解しているかを評価するとともに、外国語の知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかを評価します。 ★ペーパーテスト、文章表現活動、パフォーマンステスト等を行って評価します。 ②思考・判断・表現 ○知識及び技能を活用して、コミュニケーションや発表活動を行うのに必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価します。 ★ペーパーテスト、文章やレポート等の作成や発表、グループでの話し合い活動、パフォーマンステスト等を行って評価します。 ③主体的に学習に取り組む態度 ○知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、自分がさらに向上していこうとする意志的な側面を評価します。 ★ノートやレポート等における記述、授業中の発言や参加状況、教師による行動観察等を使用して評価します。 評価規準：○ 評価方法：★
学習の特色	
グローバル・スタディ科の授業では、英語の習得と、習得した初歩的な英語を用いて、「聞くこと」、「話すこと(やり取り・発表)」「読むこと」、「書くこと」の4技能をバランスよく身に付けていきます。 加えて、3年間を通して、コミュニケーション能力を育成します。 授業は週4時間と週5時間を交互に繰り返しながら行います。また、定期的にALTが授業に参加し、英語による言語活動を充実させます。授業は英語で行うことを基本とし、生徒の状況を見ながら進めていきます。また、ICTを活用することで、イメージで理解し、表現の幅を広げる授業の工夫も取り入れます。 *ALT・・・外国人の先生 さらに、グローバル・スタディ科では、各教科等の学習内容とも関連させながら、我が国やさいたま市の伝統や文化への理解を深め、日本人としてのアイデンティティを醸成します。 自分の将来の夢や進路とも関連付け、よりグローバルな視野を持つ生徒を育成します。	

令和7年度 グローバル・スタディ科 第3学年の目標

- ・外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

学期	学 習 到 達 目 標
1 学 期	PROGRAM1 Japanese Bentos Are Interesting!  □「人が…するのは～だ。」などを表現する。 □日本や海外の弁当文化について話す。 □自分の経験や事実を基に、学校の活動の様子を意欲的に表現する。 PROGRAM2 Good Night, Sleep Tight  □すでにし終えたことや経験したことなどを表現する。 □睡眠が生活に与える影響について話す。 □教科書の内容や資料を読み取り、明確な理由や事実を根拠として論理的に表現する。 PROGRAM3 Hot Sport Today  □人やものの呼び方などを表現する。□気持ちを動かすものなどについて意欲的に表現する。 □世界のスポーツについて論理的にまとめて、意欲的にやりとりする。 ◆Our Project7 記者会見を開こう □記者会見の目的に沿って、わかりやすいスピーチをする。 □会見の要点を聞きとり、質問したり答えたりする。 Reading1 Meaning of Life  □外国の人に、日本をテーマにした話を紹介するために、話の要点やおすすすめポイントなどを整理し、まとまりのあるブックレポートを書く。
2 学 期	PROGRAM4 Sign Languages, Not Just Gestures   □「～している人」「～されているもの」などを表現する。 □ASL(アメリカ手話)について話す。 □英語以外の外国語について調べ、論理的に伝えたり、質問に答えたりする。 PROGRAM5 The Story of Chocolate  □人やものをくわしく説明して表現する。 □チョコレートの歴史やフェアトレードについて話す。 □自分の意見に説得力を持たせるために調べ、自分の考えを意欲的に表現する。 PROGRAM6 The Great Pacific Garbage Patch   □人やものをくわしく説明して表現する。 □海のプラスチックごみの問題について話す。 □自分の意見に説得力を持たせるために調べ、その情報を基に意欲的にやりとりする。 ◆Our Project8 レストランにSDGsの取り組みを提案しよう □様々な取り組みの長所や短所について、簡単な語句や文を用いて即興でやりとりする。 □よりよい提案となるように、積極的に友だちにアドバイスをする。 □既習の言語材料の意味や働きを理解し、自分の意見をまとめて書く。 PROGRAM7 Robots Can Improve Quality of Life   □現在の事実と違うことを仮定して表現する。 □自分の考えや希望について意欲的に表現する。 □事実と違う状況でどうするかを考え、理由とともに自分の意見を即興で話したり、書いたりする。
3 学 期	Reading2 Malala's Voice for the Future   □文章を客観的に読み理解する力を高めるために、有名人についての話を読み、事実や自分の考え、気持ちなどを書くことができる。 ◆Special Project 中学校の思い出を残そう □中学校の思い出について、クラスやグループで内容や発表方法を考え、紹介することができる。 Further Reading      □物語を読んで自分がいちばん大事に思ったことを事実や理由に基づいて表現することができる。